

中部の

エネルギーを 築いた

人々

中部各地の水力発電に関わった
草創期の水力技師 **大岡 正**

水力技師大岡正は、わが国水力発電のパイオニアである。遠距離送電の実用化に成功し、明治40年ころの水力ブーム期には中部地方を中心に数多くの水力発電所建設に携わった。大岡は、安政2年9月、旗本鳥山信右衛門の子息として江戸牛込に生まれたが、同年10月に起きた安政江戸地震で両親を失い、同じ旗本の大岡家の養子となった。戊辰戦争の際は、榎本武揚の率いる開陽丸に乗船して奥州に向かおうとして失敗し、捕縛されたこともあった。



大岡 正

日本2番目の水力発電所、箱根電灯所湯本発電所

明治5年、大岡は知人に誘われて逓信省電信寮に入り、電信技師として全国の電信線建設に15年間従事した。同20年、海軍省に移り水雷研究に関わったが、米国で水力発電事業が勃興したことを知り、自分も水力発電に生涯を賭けたいと思うようになった。22年8月、水力地点を求めて箱根山中を探索し、地元福住九蔵氏の協力を得て、箱根電灯所を起し水力発電所の建設に取り組んだ。25年2月に海軍省を辞し、37歳で水力技師に転じ、同年6月わが国2番目の水力発電所として湯本発電所(直流25kW)を完成、湯本、塔ノ沢に電灯を供給した。森鷗外の小説「青年」にも発電所の灯りが出てくる。

湯本発電所の完成以降、大岡は、浜松電灯富塚発電所(明治26年)、豊橋電灯梅田川発電所(同27年)、熱海電灯熱海発電所(同28年)、郡上八幡乙姫滝発電所(同31年)等を手がけるが、流量測定の不備、機械の不



箱根電灯所 湯本発電所内部

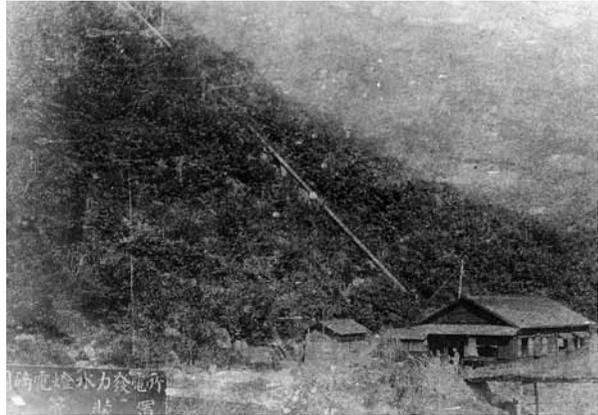


熱海電灯 熱海発電所

完全等の事情も重なってトラブルが続き、時には山師呼ばわりされることもあった。

遠距離送電の画期となった岩津発電所

大岡の水力事業の画期となったのは、岡崎電灯岩津発電所である。明治30年7月、中部地方で成功した最初の水力発電所として、岡崎郊外の奥殿村日影滝脇に水力発電所(50kW)を建設し、交流2000Vで岡崎町までの16*。kmの送電に成功した。この送電距離は水力発電の可能性を一挙に広げるもので、完成後は全国から見学者が相次いだ。岩津発電所は、33年12月に大岡の指導のもと増設(52kW)が行われ、岡崎電灯発展の礎となった。



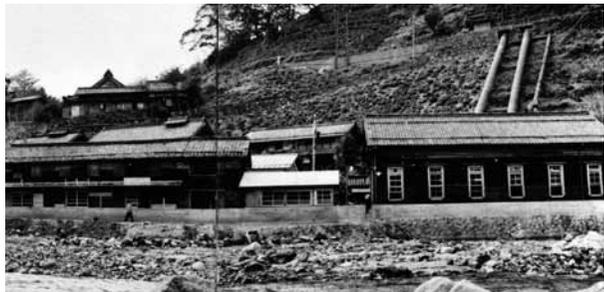
岡崎電灯 岩津発電所

大岡は、岡崎電灯の関連会社、三河電力の発電所建設にも関わり、明治35年9月、矢作川の支流田代川に小原発電所100kWを建設

した。まず瀬戸町に送電し、余勢をかって名古屋へも供給を行い、名古屋電灯と熾烈な競争を展開した。(40年6月名古屋電灯と合併)

水カブーム下の水力発電所建設

岩津発電所の成功により、大岡は経験豊かな水力技師としての評価が高まった。明治30年代後半からの水カブームを迎え、各地の水力事業者から相談が寄せられた。中部地方で関わった発電所には、岐阜電気粕川発電所(揖斐川町)、中津電気大西発電所(中津川市)、巖倉水電巖倉発電所(伊賀市)、明知町営矢伏発電所(明知町)、福島電気杭ノ原発電所(木曾町)があり、このほか関西水力電気白砂川発電所(奈良)・布目川発電所(京都)、南海水力電気修理川発電所(和歌山)、甲府電灯芦川発電所(山梨)、鳥取電灯荒船発電所(鳥取)などもあり、大岡が生涯に関わった発電所は18箇所にとどんだ。



岐阜電気 小宮神発電所

仕事に忙殺される中、大岡の体は病に冒され、明治42年2月、自宅のある名古屋市で没した。享年54歳であった。



巖倉水電 巖倉発電所跡

(浅野 伸一)